

第61期 中間報告書

2020年4月1日 2020年9月30日

61

st

2nd. QUARTERLY REPORT



日立精工株式会社

証券コード 7927



ムトー精工株式会社は、
金型技術・成形加工技術を追求することにより、
進化するプラスチックを高品位・高品質な部品として
社会に届けることを使命としています。



ムトーは、最適製造・最適調達を ワールドワイドに展開します。

当社は、射出成形用金型の設計・製作及び精密プラスチック部品製造の分野において、長年高い技術を築き上げてきました。急速に発達する3D設計やNC加工を取り入れ、コア技術に更なる磨きをかけ、確かな品質の製品をお客様へお届けします。金型製作の高い技術力とグローバル供給網を“強み”に、アジアから世界へ、成長市場・新規市場へと事業領域の拡大を推進し、高収益体質を目指します。

超精密製品製造に 対応する体制

24時間体制の自動化ラインでニーズに柔軟に応え、品質向上とコスト削減を実現しています。また、形状や規格等、お客様から求められる厳しい検査基準に対し、高い計測技術で応えています。



金型から造る技術力

成形品の量産に加え、お客様のご要望に応じて、上流工程の企画・設計段階から参画し、研究開発・試作金型の製作から金型単体の外販に至るまで事業の領域を拡大させ、収益の幅を広げていきます。

プラスチック 射出成形の 一貫生産

顧客に近いアジア地域 での圧倒的な生産力

現在、製品の6割をアジア地域で生産しています。日本と海外の各生産拠点で金型設計・加工データを共用できるネットワークを構築。低コストでシームレスに金型設計からプラスチック成形品を量産できる生産体制は、お客様から高く評価されております。



環境配慮も 追求した塗装・組立

顧客の求める環境基準への適合はもちろんのこと、「取り組もう環境保全・大地の恵みを次世代へ」を環境スローガンに、社員教育の徹底や各工程における環境汚染物質、廃プラスチックの削減を実行しています。





株主・投資家の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの第61期第2四半期（2020年4月1日から2020年9月30日）が終了いたしましたので、ここに事業の概況と中間決算についてご報告申し上げます。

2020年12月

代表取締役社長

田中 肇

第61期上期を振り返って

事業環境と業績レビュー

第61期上期は、欧米や新興国を中心とした新型コロナウイルスの感染拡大により、各国の経済は低迷いたしました。一方、感染拡大防止策として実施されたロックダウンの解除などに伴い、大幅に制限されていた経済活動が再開され、後半には景気の持ち直しが見られました。

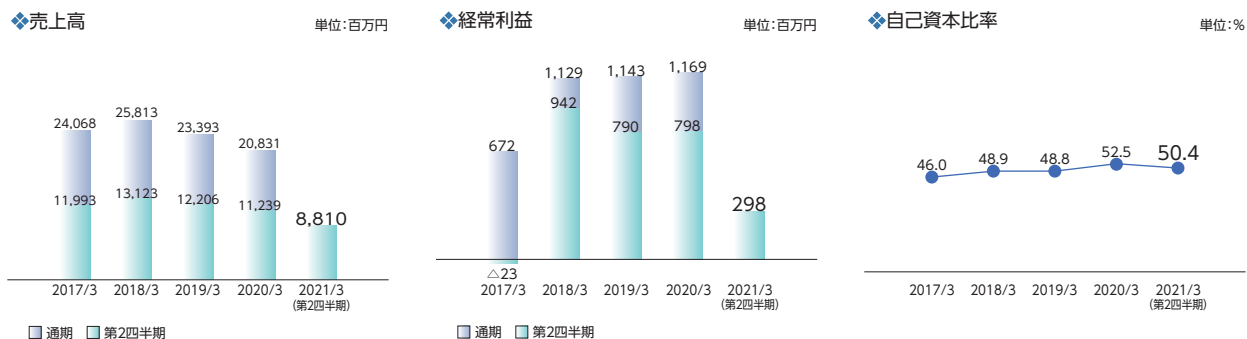
当社グループにおきましては、付加価値の高い製品の受注や省力化に向けた生産体制の強化、内製化の推進などを続けてまいりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした取引先からの受注減に伴い、売上高は減少いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は88億1千万円（前年同期比21.6%減）、営業利益は3億4千8百万円（前年同期比53.1

%減）、経常利益は2億9千8百万円（前年同期比62.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億2千1百万円（前年同期比71.2%減）となりました。

今後の展望と通期の業績見通し

自動車関連部品は、米中などの需要回復に伴い、新車の販売台数は新型コロナウイルスの感染拡大による落ち込みから回復しつつあり、当社におきましても受注の増加を見込んでおります。また、電子ペン部品及びプリンター部品は、在宅勤務やオンライン教育の浸透を背景に需要は増加傾向にあり、今後も受注は堅調に推移していくと考えております。カメラ関連部品におきましては、新規モデルの着実な受注獲得に注力してま



いります。

金型販売につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で営業活動は制限されておりますが、新規顧客の開拓・外販の強化に尽力いたします。また、グループ全体で金型部門の受注活動を強化し、稼働率向上に取り組むことで、更なる利益率の拡大を目指します。

現在、日本及び世界経済は、経済活動の再開や新型コロナウイルスに対するワクチンの開発への期待を背景に、景気悪化の底打ちが見られ、回復基調にあります。一方で、欧米を中心に新型コロナウイルスの感染が再度拡大しつつあり、景気悪化の懸念がございます。当社グループは、引き続き今後の動向に注意し、適切に対応してまいります。

以上の要因を踏まえ、通期の連結業績は、売上高173億円、営業利益4億5千万円、経常利益4億5千万円、親会社株主に帰属する当期純利益3億円を見込んでおります。

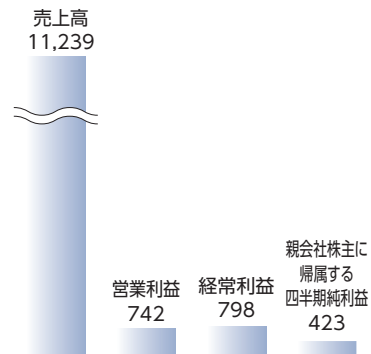
株主の皆様へメッセージ

当期上期は新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、前年同期と比べ減収・減益となり、第1四半期を中心に厳しい結果となりました。通期に向けて、当社グループは先行き不透明な国内外の状況に対応すべく、柔軟な生産体制を構築し事業環境の変化に備えると同時に、顧客各社の動向を注視し着実な受注活動を行う所存であります。また、生産工程の自動化や技術開発、業務改革に引き続き注力し、効率性・付加価値を向上させ、収益拡大へつなげていくことで、株主の皆様の期待にお応えしたいと考えております。

配当金につきましては、当社の配当方針に基づき、安定配当16円(通期)を計画いたしております。株主の皆様におかれましては、長期的な視野に立って、今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

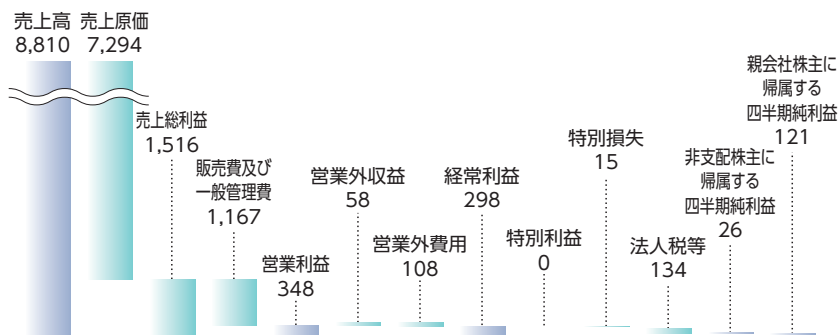
収益の状況(連結)

(単位:百万円)



2020/3 第2四半期

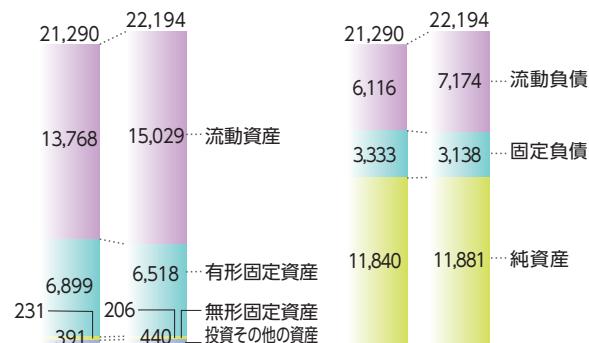
(単位:百万円)



2021/3 第2四半期

資産の状況(連結)

(単位:百万円)

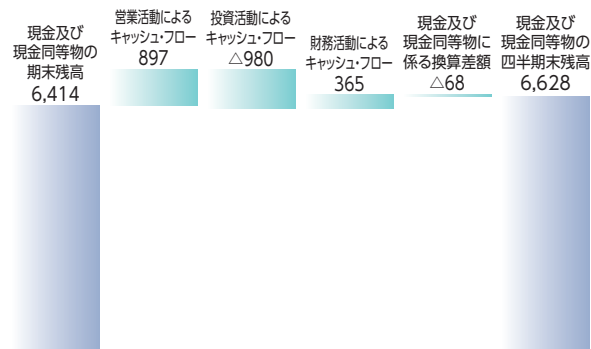


2020/3 期末 2021/3 第2四半期末

2020/3 期末 2021/3 第2四半期末

キャッシュ・フローの状況(連結)

(単位:百万円)



2020/3 期末

2021/3 第2四半期末

ムトーグループの「with コロナ」

全世界で猛威を振るう、新型コロナウイルス。感染者数の爆発的な拡大は、世界各国の経済活動にも甚大な影響を及ぼし、その深刻度は日増しに増加しています。

「見えない脅威」であるこの感染症から大切な従業員や各ステークホルダーを守り、かつ事業活動を停滞させることなく継続させることは、各企業に突き付けられた重大な課題であります。そして当社グループは、その解決を通じて、より新しく効率的な企業の姿を模索してまいりました。

今回のトピックスは特集として、従業員の健康や日頃密接な関わりのある地域社会に向けた、これまでの当社グループの取り組みをご紹介します。今後もこの未知なる脅威に対して、地域の行政、医療との連携を図りながら、従業員の安全と健康への一層の配慮、地域社会への貢献を模索し続けてまいります。

従業員の安全>>

■ 出社前の検温の徹底

出社前の体温が37.5℃以上の場合、出社しない



従業員への検温の様子

■ 手指の消毒、手洗いの励行

- ・オフィス、各工場に消毒液を設置
- ・出社時における手指の消毒、手洗いの徹底
- ・社内作業中もこまめな消毒、手洗いを励行



こまめな手洗い

■ 作業場の換気、熱中症対策

- ・エアコン使用時は1時間に1度の換気
- ・換気と隣の人との距離が取れる作業場ではマスクを外しての作業を許可

■ 社員食堂の利用時

座席間隔を空け、対面・密にならないよう配慮

■ 会議、打ち合わせ

- ・大きめの部屋を利用し、換気を徹底
- ・会議時間の短縮

■ 国内外の出張自粛



社員食堂でのソーシャルディスタンス

株主総会の運営>>

- ・座席間隔の確保
- ・より効率的な運営

お客様の安全>>

- ・対面での面談は極力控え、WEB会議システムなどを活用
- ・来訪時の検温・手指の消毒への協力依頼

地域社会への貢献>>

本社を置く、岐阜県各務原市と、事業所や子会社が進出する地域への貢献活動

■ 日本

岐阜県各務原市へ自社で製作したフェイスシールドを当社から500個、子会社の中国豊武光電から500個、合計1,000個を寄付



■ 中国

豊武光電(蘇州)有限公司より、太倉市赤十字に100万円(約1,600万円)の寄付



➡ 会社概要

商号	ムトー精工株式会社	
本社所在地	岐阜県各務原市鷺沼川崎町1丁目60番地の1	
ホームページ	https://www.muto.co.jp	
創業	1956年6月	
資本金	2,188百万円	
従業員数	連結3,891名	個別215名

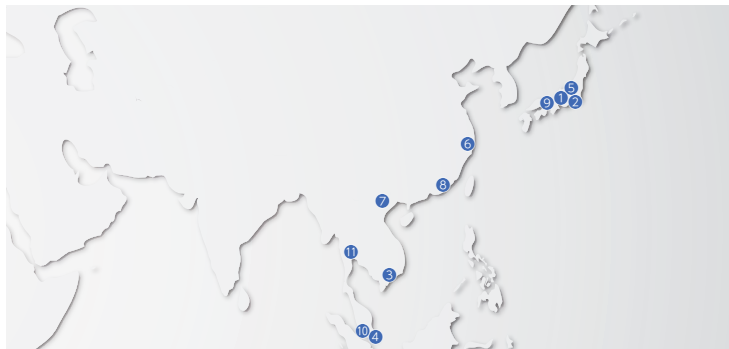
➡ 事業の内容

当社は、プラスチック成形用金型及びプラスチック精密部品の製造・販売、各種設計業務並びに技術支援等のサービス業務、プリント配線基板の設計・検査・販売及び精密プレス部品の製造・販売を行っております。

高度な専門技術を中心に、金型設計から金型製造、プラスチック成形、二次加工として塗装 (UV)・印刷・レーザーカット、そして最終工程の組立までの一貫生産を行っております。

また、海外戦略として、本社工場をマザー工場と位置付け、中国・東南アジア方面へ生産拠点のグローバル化を推進し、最適製造・最適調達システムをワールドワイドに展開しております。

➡ グローバルネットワーク



- ① 本社
- ① 岐阜工場
- ① テクニカルセンター
- ② 東京営業所
- ③ ムトーベトナムCO.,LTD.
- ④ ムトーシンガポールPTE LTD
- ⑤ 大英エレクトロニクス株式会社
- ⑥ 豊武光電 (蘇州) 有限公司
- ⑦ ムトーテクノロジーハノイCO.,LTD.
- ⑧ 武藤香港有限公司
- ⑨ タチバナ精機株式会社
- ⑩ ハントンスプリングインダストリーズSDN.BHD.
- ⑪ ムトー (タイランド) CO.,LTD.

➡ 株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式の総数	7,739,548株 (自己株式552,784株を含む。)
株主数	2,670名

➡ 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
田中肇	488	6.80
株式会社大垣共立銀行	328	4.58
株式会社十六銀行	270	3.77
名古屋中小企業投資育成株式会社	247	3.44
株式会社日本カस्टディ銀行 (信託口)	243	3.38
ビービーエイチ フォー フィデリティロー プライズド ストック ファンド	234	3.26
ムトー精工従業員持株会	229	3.20
株式会社三菱UFJ銀行	220	3.06
国立大学法人東海国立大学機構	200	2.78
SMBC日興証券株式会社	113	1.58

(注) 1.当社は、自己株式552千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため、上記の大株主から除いております。
2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。